

ダム等管理フォローアップ
意見を受けての報告書修正対応表
【布目ダム】

平成30年3月

水資源機構
関西・吉野川支社

【布目ダム】

1. 事業の概要

特になし

2. 洪水調節

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
2.4.1洪水調節効果(流量低減効果、水位低減効果) 本編 P2-145	・布目ダムは淀川水系全体の洪水調節を果たす役割を有しているが、現在の布目ダムの操作はダム直下流の河川改修の整備が遅れているため、中小規模洪水における特別防災操作の実施が必要となっている。今後、ダムの効果を適切に発揮させるため、河川改修を進めるよう河川管理者とダム管理者との協議が必要である。	—	・今後、河川管理者と協議を進めていく。

3. 利水補給

特になし

4. 堆砂

特になし

5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.6.3水質保全施設の効果把握と評価 本編 P5-210	・自然湖沼において底層Fe、Mn、Pの溶出との関係を見据えた環境基準の指定がなされた状況を鑑み、貯水池底層付近のDO状況を把握することが重要である。	【委員会意見により修正】 ・本編に以下のデータ(DO鉛直分布)図を追加した。 「補助地点の機器観測データ(1mピッチ観測)」より、底層DOの貧酸素化状況を示した。	・大阪電通大と木津川ダム総合管理所との共同研究{貯水池内水質(DO等)を鉛直・水平方向を広域に把握できる測定}を行っている。この研究成果を深層曝気設備の効果検証に使用する方針である。

<p>5.3.3貯水池 水質の鉛直分 布の変化 本編 P5-112,115～ 116,210</p> <p>5.6.3水質保全 施設の効果把 握と評価 本編 P5-207</p> <p>5.7まとめ 本編 P5-223～224</p>	<p>・水質保全施設の効果について、曝気循環設備による浅層の循環効果はあるものとは思われるが、深層曝気設備のDO改善効果を評価する際は、効果の範囲を考慮した記述とすべきである。</p> <p>また、アオコ、淡水赤潮等の富栄養化現象は減っているが、リン濃度を見ると中層付近が上昇することが見受けられ、底層からリンが溶出しているとも考えられるので、この点も考慮すべきである。</p>	<p>【委員会意見により修正】</p> <p>・貯水池DO 本編の該当ページを以下のとおり修正した。 本編P5-112【DO】上から21行に補助地点の挙動傾向の内容を追記した。 本編P5-115～116、本編P5-210に補助地点の鉛直分布図を追加した。</p> <p>本編P5-223【貯水池溶存酸素(DO)】の評価、今後の方針を以下の内容を考慮して修正した。 「貯水池内底層の溶存酸素(DO)を基準(網場)地点で見ると、夏季から秋季に貧酸素することがあるが、その頻度はダムサイト近傍に深層曝気設備を水没式複合型曝気装置に更新した平成24年度以前よりも大幅に減少した。なお、上流の補助地点においては深層曝気設備運転前後設置後においても貧酸素化する傾向が見られる。」</p> <p>・深層曝気設備 本編P5-224【深層曝気装置】の検討結果等、今後の方針を以下の内容を考慮して修正した。 「平成24年以降、ダムサイト近傍に設置した深層曝気設備(2基)の運用後も、貯水池基準(網場)地点底層は夏季から秋季に貧酸素化することはあるが、その頻度は、深層曝気設備の導入以前よりは大幅に減少している。」</p>	<p>・貯水池内底層の貧酸素化の状況とリン等栄養塩濃度の状況について、現在ダムサイト付近に設置している水質自動監視や基準地点、補助地点で行っている定期水質調査を継続し、その結果により注視していく。</p> <p>・ダムサイト近傍に設置した深層曝気設備により、貯水池内基準地点底層の貧酸素化の抑制効果を発揮できるよう継続運用していく。</p>
<p>5.6.3水質保全 施設の効果把 握と評価 本編 P5-202</p>	<p>・副ダムの効果について、浚渫による副ダムにおける物理的な栄養塩の除去については効果があると思われる。しかし、副ダムに沈降した有機物により底層DOが低下し、栄養塩の溶出が起きていることが考えられるため、評価するにあたっては貯水池から見た栄養塩の削減にも留意すべきである。</p>	<p>—</p>	<p>・副ダムの出水時の水質調査を継続する。</p>

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3.2 生物の生息・ 生育状況の変 化の把握 本編 P6-100	・クズからネザサに遷移し ていることについて、この ことからどうということが推 察されるのか？	・ダム管理運用後の一般的な遷移が 起っているものと考えている。	—
6.3.2 生物の生息・ 生育状況の変 化の把握 本編 P6-100	・植生の遷移状況は明らかに 竹林が増えている状況が 見えている。これはコナラ 群落に竹林が侵入してい ることを表していると考え られる。ダム管理に影響 であることが予想されるが 問題が出ていないか。	・現段階において影響は出ていない。	・今後の調査において竹 林について注視してい く。
6.3.2 生物の生息・ 生育状況の変 化の把握 本編 P6-100 概要版 P79	・概要版において、植物群落 の経年変化は群落別のみ を整理するとわかりやす い。	—	・次回からは群落別のみ とする。
6.5.1 土砂還元(フラ ッシュ放流を 含む) 本編 P6-190	・土砂還元は中断している が、地元漁業組合など利害 関係者と意思疎通が重要 である。今後、川上ダム完 成に向けて、土砂還元を増 やしていく必要がある。置 土の量、形状、タイミング、 流し方など工夫しながら 土砂還元を推進する仕組 みを作ってほしい。	—	・フラッシュ放流と土砂 還元について、他ダムで の実施状況を見ながら 検討を行い、再開に向け 関係機関との協議を行 っていく。

7. 水源地域動態

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
7.7.1大学との 共同研究の推 進 本編 P7-47	・大学等との共同研究をし ていることは良い取り組み である。	—	・今後、引き続き組み を行っていく。